

平成 28 年 10 月 1 日（土） 横山校区 タウンミーティング 参加者 34 名

【地域の課題】

市民：横山校区として、主な地域の課題としまして 3 点ある。1 点目、旧横山高校の跡地に予定されているふれあい広場について。2 点目、槇尾山麓に温泉を掘るということ、3 点目、上川バイパスの早期実現について。まず 1 番の横山高校野跡地に予定されているふれあい広場について。

市民：横山高校跡地に予定されているふれあい広場に関して説明させて頂き、後程市長からご説明頂けたらと思う。今日ご参加頂いている横山地区の方々、ふれあい広場と申し上げてもピンとこない方も沢山おられると思う。まず位置だけ言うと、元の横山高校の形というのはお分かりと思う。その横山高校の東北の隅に 300 坪の広場があるとイメージしてほしい。そのイメージをしていただいて、私の文章を読み上げるので、お聞きいただけたらと思う。横山校区では世帯数や人口の減少により過疎化が進み、これまでの地域構造が大きく変わった。それだけに旧横山高校跡地に整備が進む施設は横山に新たな風を起こす拠点として期待している。横山高校跡地にはスポーツの施設のみならず横山の再生に結びつく施設づくりを求め、再三これまで歴代の校区長が要望書を提出してきた結果、旧横山高校跡地の一角に確保された。約 300 坪のふれあい広場は、そんな私達、横山地元の願いを聞き入れて頂いた証であると安堵するとともに、勇断を下していただいた辻市長に感謝申し上げる次第。市長の説明にあったように、市ではそれぞれの地域に見合った施策が進められているようで、その中で公共施設の配置状況は、南部地域と他の地域では差があるように思う。特に地域福祉面においては、槇尾中学校背後に残る、老朽化した老人憩いの家があるのみで、これではお粗末としか言いようがない。市制施行 60 年の間に出来上がった、大阪府も北高南低と言われますが、和泉市も北高南低の格差是正は直ちに改善できるものとは思わないが、同じ和泉市民として他の地域との地域サービスを公平に享受できるために、このたび確保して頂いたふれあい広場の具体化を急いで頂きたく切望するもの。この事は去る 5 月 9 日に横山市民会議の要望書の中で、ふれあい広場に地元意向を十分に反映した施設をお願いしますと申し上げると、市長から地元と話し合って進める協議会を設置するという回答をいただき、本当に安堵している所。この件に関しての市長の所見を伺いたいと思う。

市長：総合スポーツセンターが来年 7 月に完了し、その後に調整させて頂いて、まちづくり協議会を作りそこから検討させていただきたいと思う。南部地域を放ったらかしにしているようなことをおっしゃっていたが、そんなことは決してなく、逆にタウンミーティングで北部に行ったら、南だけ良くなって北部は放ったらかしではないかと言われたりするが、決して両方ともそんなことはなく、バランスを考えながら取り組みを進めていくつもり。何度もあちこちで言っているが、南部地域が一番伸びしろがあると私は認識している。これから和歌山からのトンネルができる。和歌

山は百万人足らずの県だが非常に元気で、我々もそれに合わせて南部地域から交流を深めて発展につなげていきたいと思う。

市民：何も放ったらかしにされているという認識はない。確かにいろんな施設、先ほど説明頂いた消防署南分署、南部リージョンセンター等、色々力を入れて頂いていると思う。何せ遅れてきた地域というのは事実。ハコモノを作ってどうこう贅沢しようと言うことはないので、その点を市長ご安心頂いて、力を入れてもらいたい。

市長：見えない部分で下水道が着々と進んでおり、南部全部を公共下水とか、農集、プラントを作ったというより、できるだけ早くということで、新設置型の合併浄化槽の整備、水道についても仏並に配水池を作って、15億円位かかっている。岸和田の左手に向かって工事を進めて秋に完成する。水道を整備しないと170号線沿線もあまり地域に歓迎されるような活用がされていない。それを事務所を設置したり工場を設置したりしようとか、上下水道を完備されていないいろんな企業ははりつかないと。また大阪府と協議して1年半前から都市計画を見直そうということで、170号線沿線のまちづくりにも取り組んでいきたい。少しずつだが、形となって現れるように頑張るので、ご協力お願いしたい。

市民：市長は槇尾山に温泉を掘るとあちらこちらで話をされているが、そのことについて期待を込めてお聞きしたいが、参拝者が6~7万と言われている。槇尾山の施福寺、青少年の家、現在進めている笑働の森、そこに温泉が加われば、地域活性化対策として効果を出してくれるのではと大いに期待するが、市長の真意を伺いたい。

市長：おっしゃったとおりで、是非とも温泉を掘って、和泉市の施福寺にお参りして、そこでくつろいで頂いて、交流人口の拡大をしていくと。具体的な計画は今の所ないが、岸和田市長が言うところでは、和泉市に来た方、施福寺に来た方が岸和田のいよやかな郷に泊まって来てありがたいと。こちらとすればありがたいことで、和泉市に来た方は和泉市に泊まってもらいたい。今考えているのは、温泉を掘って青少年の家、ここは耐震基準も満たされていて良い施設で、見た目も北欧調と私は思っている。温泉を掘ってもそんなに多くは20億30億も事業費が要るものではなく、露天風呂も作って内装も変えて、できれば指定管理ということで、年間おもてなしして頂けるようなところに委託したい。今は、夏場はキャンプ等で非常に賑やかだが、冬場はほとんど来られない施設で、教育施設として位置づけられているが、それを一般的に開放できる施設として、温泉を掘って露天風呂作って地域の人にもリラックス、リフレッシュして頂ける施設にしたいと思う。トンネルが出来たらかつらぎ町の一番奥、一番離れているところ、「花圃の里」と言う温浴施設が出来た。それも結構立派な施設で、元々温泉があったところから湯を引いて来て、新しく夏にリニューアルオープンした。それでも10億円位と言っていた。長期的な計画で横山に、ぜひとも、いよやかな郷まで行かなくても、せせらぎもあるし、大阪府が整備してくれると言っているのです、和泉市もそれを活用したコースもできて、笑働の

森、マイナスイオンのあるところで、くつろいでいただけるおもてなしの施設を作りたいと思う。具体的な計画はまだないが、その思いはあるので取り組みを進めて行きたいと思う。

市民：よろしくお願ひしたいと思う。温泉を掘るまでに横山校区としてはやらないといけない事が色々ある。

市長：優先順位をつけながらやっていきたいと思う。

市民：20年ほど前、西国33か所、四国88か所を回った時、ちょっといいなと思ったことは西国27番目の書寫山圓教寺という寺があり、その裾野に60~70台の大きな駐車場がありバスも停まる。その片隅に売店軽食店があり、その近くからケーブルに乗って行けるようになっている。これはいいなと思った。槇尾山施福寺は西国4番目の札所で有名。これを利用することはいいのではないか。ロープウェイを作って来年新しい道もできるし、そういった施設、槇尾山へ通じるロープウェイを作ったら活性化にもなる。横山のためにも、和泉市のためにもいい方向に進むのではと。一つお願ひしたい。

市長：いいなと思うが。金剛山はケーブルがあるが、年間どれくらい来るかと言うと、1000万人来る。それ位来ないとケーブル設置は難しいと思います。ただ施福寺は西国33番で2番目にきついと聞く。私も登るが、ケーブルをつけるなら裏側。向こうの採石場の方から物を運ぶのにケーブルをつけているが、そこにスキー場のリフト位なら可能かなと思う。その辺も含めて検討課題にさせてほしい。

市民：正面は観光バスも通るし、新しい道もできる。

市長：あそこにはケーブルをつけられないのでは。設置できるような地形ではないと思うが。裏側にはあり、可能だと思うが。施福寺は6、7万人位でケーブル、ロープウェイは難しいと思う。

市民：一つお願ひする。

市長：足の不自由な方でも行けるように。

市民：先ほどから重要施策について市長の説明があり、元気な和泉市、裕福な和泉市、自信にみなぎっている市長と心強い印象を受けた。市長は上川バイパスをご存知か。

市長：はい。

市民：福瀬町と北田中町と岡町、東槇尾川に沿って外環状、国道170号と旧170号を結ぶ道路。これは、何も市の方にしてくれというものではない。大阪府の事情だが、しかし地元自治体の力が絶対に必要なので上げさせて頂いた。平成6年9月4日に関西国際空港が開港し、その前8月30日に外環、国道170号が開通した。その時から地元から3つの要望が出ていた。それは府の方で受け止めていただいたが、その後平成10年を回ったころ、府は3つの調査をして、物理的に非常に難しい、それとも財政事情からかもしれないが、3つの要望を1つにされた。府は実施するということをや地元に約束した。その一つがこの上川バイパス。なぜこのバイパスが必要かとい

うと、現在の外環から泉北・堺に抜ける車、又その反対方向の車が非常に多い。どこを通るかと言うと旧道と外環を結ぶ道路、現在岡町から下の上川橋に抜ける道、非常にくねって狭い。北田中町の小学校、農協の前を抜ける道、これも非常に曲がって非常に狭い。もう一つは福瀬町内、外環のさぬきやの信号から通って北田中へ抜ける道、そこを車がよく通るが、やはり福瀬町、高齢化が 29%、また通学路で歩道がない、道が平坦でなく上り下りがあり、非常に車がスピードを出し危険である。そういう状況から必要だということで、府が平成 9 年に交通量調査をした。実施を決定し、道路設計した。平成 11 年から平成 13 年に用地買収をした。平成 16 年から 17 年にまず上川橋の架け替え、それから平成 23 年河川の拡幅工事をした。それが一応上川バイパス。平成 23 年にそれができたので、地元はすぐに道路工事に入るだろうと期待していたが、なかなか見えてこない。用地買収もしてあるので、土を積んだままである。この間、夜間防災訓練、市と府からしてくれと言われ、市長も来てくれた。一番最後に、住民から上川バイパスは土を積んだままでどうなっているのかと言ったのは市長ご存じかと思う。住民として、堪忍袋の緒が切れて、町会定例会の中で班長からどうなっているのか聞いてみようということで府の鳳土木事務所に電話で聞いた。府ではそんな事業はないと、市の事業だと。おかしいなと思い、市に電話したらそんな計画はないと言う。おかしい。その翌月の 7 月頃にもう一度町会定例会で府でも市でもそんな計画はないと言っていると。そんなことはない、府がすると言ったではないか、先輩の歴代の町会長に聞いたらやってくれると言っていたと聞いた。用地買収された地権者の方に聞くと、府が道路を作るということで用地買収された。土が積まれたままでは土地の活用もできない。もう早くしてほしいと。もう一回これはいかんと鳳土木に電話したら、計画はあったかもしれないが、どこかの時点で消えてしまったと。それでは地元は困ります。昔からの 3 つの要望が 1 つになり、用地買収もしたと。もう一回なぜ消えたか調べてくれと。いろいろ調べてくれたが、なぜ消えたかはわからないが、鳳土木の管内図には上川バイパスは計画で残っている。残っているが、府も市も忘れてあったのか、失念していたのか、これやったらいくら待ってもできないはずだと思う。暖かい血の通った行政を展開される市長として、これについて簡潔にどう思うか。

市長：たぶん引き継ぎされてなかった。

市民：血の通った行政について聞いている。鳳土木に何回も要請した。すると 11 月頃に交通量調査をもう一回させてくれと。それで仕方なく交通量調査をしてもらった。前の平成 9 年よりも台数が増えていた。ホッとした。我々は市の方にお問い合わせに行くと、部長と市長が鳳土木と会う場をセットしてくれた。我々町会 3 役、前班長と話をし、両方してきたという経緯がある。市として府にどのように要望されてどう考えているか。

市長：この道路の必要性は私も認識している。別所に抜けて行く車は多い。170 号線の広い

道路ができていますが、堺市に抜けて行く車は旧 170 号線を通っていくし、特に大型トラックも多いのはよくわかっている。大阪府にも要望していて、大阪府も忘れてたので引き継ぎしないといけないと。そのものについては必要と認識していて、それ以外についても大阪府にいろいろと要望している。大阪府はどれを優先しているのかと。480 号線から優先していただいた。170 号線の 4 車線化も進めていただいている。今年は橋をまずやってもらわないことには、若樫の橋と久井の橋。耐震化の予算は今年付けて頂いている。徐々に予算をつけていただいて道路整備もして頂いて。この間も池上下宮線も作ってほしいと言いにいったら、どれを優先するのかと。地元の皆さんと協議しないと、府も一度に和泉市だけに事業費付けてはできないので、上川バイパスもやるという答えも頂いている。29 年度、市の府に対する予算要求も上川バイパスを入れている。それもこれから優先順位をつけて、時期はまだ決定していないが。

市民：今市長から回答頂いたが、府はやるとはっきりと言ったのか。

市長：事業の必要性は認識していると。

市民：用地買収もしていて認識は当然であり、やるとはっきり言ってくれるなら何も言わない。事前の市の答えの中で「上川バイパスだけでなく、和泉市全域の交通渋滞解消をあわせて府に要望している」ということだが、我々にとって他の所の交通渋滞は関係ない。「上川バイパスだけでなく」というと上川バイパスは小さな事業だが、他の大きな要望と一緒に要望されたら、付録みたいに入れているのと違うかと。府としてもどれを優先するのか。先ほどの経緯を含めて上川バイパスを優先順位のトップにしてくれないのか。あるいは別建てでも要望してくれないのか。一番下に見えてしまう。市長は上川バイパスの市の中の優先順位はどう思っているか。

市長：なかなか難しい。たとえば池上下宮線をどうするのか。優先順位が高いのは、480 号線で、橋もできていて 170 号線も優先順位が高い。大阪岸和田南海線も高い、その次位か。

市民：今の市長の話を聞いてたら、優先順位は相当後のようだ。相当前から府も市も忘れてあった。道路拡幅も用地買収も 80% して、だから我々は府に何回も言っている。忘れないように毎月 1 回行っている。府の担当者は市の意向が大切だと言う。それならば、市長は上川バイパスが絶対に必要と思っているか。

市長：思っている。

市民：先ほど市長はいろんな重要施策を説明されてるが、市の事業と違う。これは府の事業だと、府に対してさせるような確約させるという強い覚悟もっておられるか。

市長：もちろん。

市民：市長は絶対必要で、府に絶対させるという決意を持っておられると。それが一番大事で、市長に確認した。29 年度に、府に対する予算要求をした。その時の府の回答が市に来ている時に、その回答は「バイパスの必要性は認識しており、着手に向け

て前向きに検討中だが、他の事業との調整等もあり時期については未定と聞いている」という答えを市から聞いた。聞いてもらったらその次どうしてくれるのか。市長がそれだけ絶対必要だと思ってるのに、腰が引けて、弱腰に見える。

市長：力が入ってるのはわかる。お金がいくらでもあれば府もやってくれる。絶対必要な都市整備とは、どこが一番必要かという、絶対やれと言われても、お金がいくらでもあって、事業を発注したら終わり、事業をやってくれる事業者があればそれで終わり、ということであればいいが、大阪府も当然に優先順位をつけて予算化している。我々も当然要望していくが、他の事業もやらないといけない。力が入っているのはわかるが、決して腰が引けてるのではない。

市民：市長は必要と思ってるのはわかるし、そのような強い決意を持ってるなら、府に対してどのような戦略で、市の事業ではなく府の事業だから、要望でも年に1回の文章でも、知事に会う場合でも色々あるが、市長が絶対必要だと思っているのなら、今後府に対してどうするのか。

市長：優先順序をつけてやらなければならない。池上下宮線もかなり要望している。

市民：一つだけお願いがある。大阪府都市整備部長に対する要望活動に、我々地元とともに市長も行ってほしい。市長、一度そのような場を設けてほしい。我々だけで行ってもそんな前例はないと言われる。そこは市長しかできないので。

【市長との意見交換】

市民：2つ質問がある。1つは横山で火事火災の時にサイレンが鳴るらしいが、いつからしてもらえるのか。2つ目、国分の町内を通るダンプカーが相当多い。後をつけて行ったわけではないが、行き先ははつが野の小中一貫校に入っているようで、ダンプがめちゃくちゃ多い。ある業者のステッカーをかけたダンプが国分を通る。下水工事をやってるので、これは警察の管轄だと思うが、一度市の方でどこから出て、なるべく南池田校区でもそんな意見が出ていないかと思うが。しょっちゅう通ってたら3台も4台も続けてくる。以前自分が町会長をしていた時は、全部下宮から福瀬を通して外環状通って、生活道路を通らないようずっと要望してたが、国分の中で、横山の人も結構通るから、皆さん思っているのでは。調べて欲しいと思う。この2点。

市長：サイレンについては話を聞いているが、ちょっと前から国の法律で流せなくなったので、こちらだけで特別なサイレンを作って火事やいろんな災害の周知をするということで、要望も頂いているし、やるという方向で進めていると聞いている。時期は改めて連絡させてもらう。

市民：近いうちで。色々聞かれる。

市長：やる方向と聞いているが、そこまで把握はしていない。決まっているかどうかはわからない。国分町を通るダンプについてはまだ把握してないが、青葉はつがの小学校に行く車であれば、市が発注したのではなくURが発注している。URを通じて通

行する道路については、ある程度の配慮を言えるかもしれない。それは改めて対処させて頂く。

市民：サイレンの事だが、何回も要望を出し、話し合いもして市長がわからないとは。大体の形はできてるのか。連合としてかなり協力してきたつもりだが。

市長：やる方向で話は聞いているが、時期がまだ決まっていない。

市民：今日は事務局の方がいらっしゃるので、わかるのではないかと。

市長：担当が違う。事前に言って頂いたら調べてお答えできるが、やる方向で検討している。時期についてはまた調べる。

市民：地元の町会では聞いている。

市長：時期を聞いているか。やる方向で検討していると聞いている。時期については連絡させていただく。担当が違うとわからない。実際に交渉している人でないとわからない。事前にそういう質問があるということであれば、時期を聞いて言うが、今日聞かれたことなので。

市民：市長のお話をお聞きして驚いた。今日は必ずこの質問が出るだろうと、地域、我々町会連合会から事前に報告している。横山校区の身近な大きな課題はこれで、必ず出ると、担当部局には横山町会連合会としてはお伝えしている。市長には的確な説明をしていただくようにと。直接市役所に出向き話してあるはずで、そこの方からは前向きに考えて頂けると、私共連合町会は受けている。やるというところまでは担当部局からは出ていない。わかりやすくトップの方から説明して頂かないとタウンミーティングの意味がない。我々も出向き、担当部局にきちんとお伝えしていたし、市長にご報告すると返答もあったので今日はわかりやすいお話をしていただけと。

市長：一番最初に、3点についてということだったが、4点目として事前に連絡いただいたということか。事前に言ってもらったら調べられる。意見交換はしている。改めてお答えはする。

市民：町内で火事があった。現実に法令でサイレンが鳴らないということで、火事になっているのを隣の人が見つけた。たまたま大きくならなくてよかった。怖い状態が現実的に起きている。意見交換で取り上げていただいているということは、それなら早急にそうならないようにすべきだと。タウンミーティングの中で一つの意見として取り上げて。市長が知らない、担当部署でないからわからないと。市長のトップダウンですぐ鳴るようにしてほしい。住民が怖い目にあって、被害をこうむっている。住民を守るのが市長の役割で、早急に鳴るようにしてほしい。生活を脅かされることが今後もある。タウンミーティングを通じて汲み上げて頂きたい。

市長：それはお聞かせ頂いている。対処できることは対処していく。サイレンが鳴らないのは知っている。

市民：火事が現実的に起こっている。たまたま1件だけかもしれないが、大事な家が燃えて

いる。

市長：それは理解している。私も消防団に入っていたし、実際に火災現場へ火を消しにいったこともあるので、良くわかっている。できることはやっていくが、いつできるかと言われると、やる方向で検討しているとは聞いている。

市民：そういう意見が出るとは知らなかったということについては、意見は言わせてもらった。それについてはきっちりと市長としてお答えしていただきたい。

市民：市長、今からの話は横山校区全員の声と受け止めていただきたい。町会長は月一回会議をするが、毎度毎度この話が出る。この3点、代表者が質問させて頂いた。事務局としてどのような調整されていたのか疑問に思う。我々としては質問として出すのは絞るようにお聞きしていた。一般の町民にも質問を出していただいたらと言う気持ちで我々は座っている。そこで毎月この問題が出てくるので、担当部局にわざわざ出向き、事務局として質問件数は制約されていることから、町会議を開いてこのようにまとめたが、消防のサイレンは一般の方々から質問あると思っておいた方がよろしいと。我々も円満にタウンミーティングを展開したいが、市長のお話の中で市民から指摘もあった。私は当然の指摘だったと思う。市役所にお帰りになったら、担当部局と実際に話をしてほしい。そして校区長へ市長から今晚のこの話はこういうことだと、月曜でも結構なので返答いただきたい。そして校区長から町会長会議でその結果をご報告いただく。この問題をこれで決にさせて頂いてよろしいか。

市長：連絡する。

市民：二人が出向いて行っているのに非常に残念。

市民：老人の立場で話させて頂く。先ほどの横山校区の跡地にふれあい広場ということで、優先的に老人の家を。刈り山まである。あれも昔は高台で見晴のいいところにできたと、その当時の方は非常に喜んだと思うが、あの頃は例えば中風になったら家で寝てたらいいという考え方の人が多かったが、今や車いすに乗せて、車で家から少しでも外へ出そうと努力をされていて、そういう点からもあそこに建てて頂くと非常にありがたいなと思っている。もう一つは、私達老人が屋外スポーツのグランドゴルフを積極的にしているが、なかなか50m四方という場所が取りにくいので、横山小学校のこども会に土曜日に入れさせて頂いてグランドを使わせてもらっているが、孫からは「おじいちゃんがグランド使うから僕らはソフトボールがでけへん」と、家で苦情を聞く。考えてみると、今横山で0歳児から4歳児までが460人余り。総4,900人の中で1割弱がこどもで、そうすると、はつが野に小中一貫教育、以前より横山にも小中一貫校をとお願いしていたが、今や1クラス20数名~30名そこそこというクラスとなっている。だから中学校に小中一貫教育でまとめてもらい、小学校のグランドと建物を老人会に振り替えてもらおうと。そんなバカなことがあるかと言われるかもしれないが、鳥取県に前例がある。若桜町では木材をふんだん

に使った良い道の駅があり、小中一貫校が出来て、常設のおそらく小学校の体育館だけを残して、敷地を小学校として確保しておかないと、将来人口が増えると言ってもそんなに増えないと思う。かつて横山高校に一時中学校を移転させて、建て替えてくださいとお願いしたことがある。当時の井坂市長はとりあえず耐震化させてくれと言われ、耐震工事をして4年たてばいつでも取り壊すことが出来るということだった。先日も市長に少しお話ししたが、今の校舎の建て方は槇尾中だけが一番悪い建て方で、横山小学校も、前横山高校にしてもだが、東西に建てて、朝日が教室に入って西日が陰るという校舎の建て方をしないといけないのに、槇尾中は朝日を廊下で遮って午後に西日が入ってくる建て方になっている。一刻も早く、大方50年たっているのも、一番古いということを見ると、小中一貫教育で中学校にまとめてほしい。小学校は、今までは大きな三角形だったが、我々高齢者が逆三角形になってしまい、医療・福祉はかなり充実されているが、高齢者で健康維持するためのスポーツ施設がほとんど見当たらないと思う。そういう観点から発想の転換もして頂きたいと思う。

市長：おっしゃるとおりで、今後は和泉市全体の学校の適正配置を考える必要があると思う。小中一貫校、南松尾はつがの学園が来年オープンするが、その課題点やメリット・デメリットも検証しながら地域にあった適正配置、もちろん横山も、全体的に取り組んでいくと考えている。